**第159回ペン川柳「傾く」**

**世話人：平尾富男（酔深）**

**日時＝平成２９年７月２１日（金）稲田屋新宿西口店**

**参加者＝三春（火酒）、大野昰（だし）、平尾富男（醉深）、稲宮健一（井波）、山縣正靖（安兵衛）、安藤晃二（晃二）、西川武彦（酔雅）、細谷博（損得）　（８名＝１６句）**

**欠席投句者＝岩崎洋一郎（不言）、八木信男（明迷）、富田佳瑞（鬼瓦）、浜田道雄（我々好）、松谷隆（零門）（５名­＝１０句）**

**お題は「傾く」ですが、（かたむく）とも（かぶく）とも読みますので、いずれの趣旨で詠んでも構いません；（\*印は今月の互選５句、\*は最優秀句）**

**１． 廓噺情に傾き聞き惚れる　（井波）　←　（２票）**元句は**「情が」**でしたが**「情に」**添削されました。作者は自他ともに認める廓（くるわ）大好き人間ですが、残念な事に作者が成（性）年になる頃には廓は法律的には存在しなくなりました。従って、話（噺）だけでも作者は満足なのです！？

**２． 傾いた酔女を肩に降りられず　（八木）　←　（０票）**元句は**「酔女が」**でしたが**「酔女を」**に添削されました。酔った（多分美人の）女性が作者の肩にしなだれかかっていて、下車すべき駅で降りられなくなり困って（内心喜んで）います。

**\*３．傾いた塔から落とす新理論　（我々好）　←　（４票）**ガリレオ・ガリレイは**ピサの斜塔**から二つの重さの違う球体を落とし、それらが同時に着地したことを実験で示し**「落体の法則」**を証明しました。そんなことをわざわざ川柳で得意気に詠む作者の心意気を誉めましょう。今月の優秀句の一つ。とにもかくにも４票入ったのですから！

**４． 御外遊国じゃお城が傾いた　（安兵衛）　←　（１票）外遊好きの安倍総理**を詠んだ時事川柳です。自民一強安倍一強の情けない世相を嘆く作者ですが、この国には他に傑出した党派も人物もいませんね。所詮、企業OB諸氏の引退が早過ぎたのです！！

**\*５． 忖度を重ね傾くまつりごと　（酔雅）　←　（４票）**まさに「忖度」ばかりしている役人や政治家ばかりの日本の悲惨な現状は目に余ります。作者は「その通り！」と手を打ち鳴らす企業OBメンバーを代表して声を上げているのです。今月の優秀句の一つに選ばれました。

**６． 焦がれ待つ君来ず月の傾けり　（晃二）　←　（２票）**万葉集からの本歌取りで、格調高い句を狙いましたが、川柳からは遠くかけ離れてしまいました。せめて「恋焦がれ小金つぎ込み家傾いた」としては如何かな？　元句は**「焦れ」**でした。

**７． 右左傾く私情けなや　（損得）　←　（０票）**右顧左眄でしょうか？　政治信条が定まらない自分に嫌気がしているのでしょうか！　どっちの女性に声掛けようか迷っているのです。大丈夫ですよ、どっちからも見向きもされませんから！！

**８． こんな議員たちで党が傾いた　（明迷）　←　（１票）**流石の浪速の名人も連日の暑さで脳内温度が急上昇し、川柳のリズムも狂いっぱなしです。最近の安倍自民党総裁の発言を引用しての安直な仕上げで川柳句も傾いてしまいました。

**９． 屋台骨傾きはじめて党が揺れ　（我々好）　←　（３票）**自民党の屋台骨はとっくに傾いていますから、揺れるどころか崩壊戦前です。それでも他の党がだらしないから安心しているのですね。

**10． 屋台骨傾いてなお夢の中　（酔深）　←　（２票）**傾いていることに気が付かないで安閑として太平の夢を貪っていられるのは、他党も平成の惰眠の中にいるからです。

**11． 爆睡の傾く肩に策を練る　（酔雅）　←　（２票）**元句は「爆睡し」でしたが添削されました。「策を練る」のが好きな作者です。電車の中で居眠りしている女性が自分の肩に寄り掛かっているのをよいことに、**良からぬことを考えている**のです。**「下手の考え休むに似たり」**ですから、女性は安全です。

**12． 懐かしや傾くまでの月を見し　（だし）　←　（０票）**元句は**「月を見し頃」**でしたが、字余りで冗長になるので添削されました。若かりし頃は、物思いにふけって月の傾くのをじっと見つめていたものだと……。容貌からは想像ができないロマンチックな句です。川柳から離れましたね。

**13． くじ外れ家は傾き日は落ちる　（損得）　←　（２票）**元句では**「くじ外ずれ」**でしたが添削されました。いずれにしても落日の寂しい人生を詠んだ句です。実際は日々悠々自適だからこそ、川柳会ではこんな句を詠みたがるのです。

**\*14． 盃が傾き続き愚痴が増え　（酔深）　←　（３票）飲むほどに酔うほどに**愚痴をこぼすようになってしまっては人が寄って来てくれません。でも**人生寄る年波**、益々この傾向が強くなります。お互いに気を付けましょう、ご同心！

**15． 昭惠さん要らぬ口利き傾（かぶ）く国　（不言）　←　（０票）**元句は**「要らざる」**でしたが字余りを避けて添削されました。明るい能天気な性格なのか、出しゃばり女なのか！？　どうも後者のようですね。口さがない川柳子は昭惠さんが総理の方が良いのでは？との意見（放言）も。最近、トランプ大統領にも嫌われましたが。それだけ大物なのかもネ～

**16． 傾ける杯を合わせてそれじゃあね　（鬼瓦）　←　（１票）**別れる前には、お互いの盃を掲げて一言「それじゃあ次回又会いましょう」と挨拶。最近では「次回」が段々遠のいて行く、それが**最後になる**仲間も増えました嗚呼‼

**17． 吉田式生産傾き大騒動　（晃二）　←　（０票）**戦後の第一次吉田内閣の時に実行された、石炭と鉄鋼の生産拡大を中心に経済復興を企図する政策の失敗を川柳に盛り込んで、難しい**経済川柳？**を試した作者の最近の心境が心配になる句でした。

**18． 欠番**

**19． ゆりキックしんが傾き石出番　（井波）　←　（０票）**経済川柳の後は**政争川柳？**です。**小池百合子**、**安倍晋三**、そして**石破茂**の三人による**政界プロレス**を詠みました。発想は素晴らしいですが、ちょっとインパクトに欠けました。果たして**石破はどこまで頑張れるか**？　レフリーはあなた**ペン川柳子**ですよ。

**20． 急停車傾く妻を手で支え　（零門）　←　（１票）**下五は**「胸に抱き」**が事実でしたが、電車の中ですから流石に気恥ずかしいと穏便な言葉でごまかした、とは作者の言です。自他ともに許すクラブきっての愛妻家ならではの句です。それにしてもよくもまあこんな句を川柳として公に出しますね～。　一度でいいから、嘘でもこんな句を作ってみたいとは世話人の弁です！　**「急停車これ幸いと尻触り」**、或いは下五を**「胸掴み」**に代えることも可！

**21． 盃を傾けあった友何処　（不言）　←　（１票）**元句は**「杯」**でしたが添削されました。作者はこの句の後に**「多くはあの世に旅立ちぬ」**を付け加えて寂しさを強調していました。いずれ我が川柳子の全員が**「旅立つ」**ことになるのです。**あの世でも川柳を詠み合おう**ではありませんか！！

**22． おらが城傾けたのに喰えぬ人　（鬼瓦）　←　（０票）「城を傾けた」**のは**籠池**さん。その彼が**「食えぬ人」**と恨み節を詠うのは**安倍晋三**さんの事ですね。「傾城（けいせい）」といえば、絶世の美女のことでしたが……。

**\*23． 東風吹かば西に傾く風見鶏　（火酒）　←　（５票）**名人復活です。暑さにもめげずこんな川柳を詠めるのは、才能と日頃の鍛錬なのです。リズムも切れも良く、**「東風吹かば匂い起こせよ」**の本歌取りを見事な川柳で完成させました。下五を**「風見鶏」**で締めるのも秀逸！　誰が何と言っても**今月の最優秀句**。

**24． やれ傾（かぶ）けアベの傾城三熟女　（安兵衛）　←　（１票）**「傾（かぶ）く」には「勝手な振る舞いをする」の意味あります。この句での使用法は将にこれです。**「アベの三熟女」**とは、**稲田朋美**防衛大臣、**豊田真由子**衆議院議員、**三原じゅん子**参議院議員。三人とも問題女史ですね。

この句は、世話人としてはもっと高得点になるべき句と思う次第。

**25． 傾くや飛んで酒(しゅ)に入るサラリーマン　（火酒）　←　（１票）**上五の**「傾くや」**は**「日（太陽）が陰ること」**。この句は「夕方（５時過ぎ）になるや否や**急いで居酒屋に飛び込むサラリーマン**」のことを詠みました。**「酒（しゅ）に入る」**は少々無理がありましたが面白い句です。

**\*26． 三代目家傾くも省みず　（零門）　←　（４票）**昔から「三代目が（放蕩で）家を潰す」と言われてきました。自分の代でお家が続かなくなっても反省しないのが三代目の三代目たるものです。優秀句に選ばれました。今の政界を見れば、**岸信介**、**安倍晋太郎**、そして三代目は**安倍晋三**なのですね。

**―　今後の日程：**

**8月25日（金）「星」、\*9月22日（金）、\*10月26日(木)～28日（土）金沢合宿、
\*11月24日（金）、\*12月22日（金）**